

関係各位

愛知県農業総合試験場長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。  
記

令和4年度病害虫発生予報第4号(7月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085(内線471)  
ファックス 0561-63-7820

## 令和4年度病害虫発生予報第4号(7月)

令和4年7月1日  
愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -~±
	紋枯病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない 7月の気温は高い	± -~± +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	セジロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	カメムシ類	多い	県全域	畦畔における6月の発生量は やや多い 予察灯における誘殺数はやや多い	+ +
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-

・防除対策

〔イネ紋枯病〕

紋枯病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場で発生を確認したら、病斑が上位葉に伸展する前に、オリブライト1キロ粒剤、バリダシン液剤5、モンカット粒剤などで防除しましょう。

〔カメムシ類〕

カスミカメ類が多く捕獲されています。日頃から畦畔の雑草管理を行い、特に出穂2～3週間前には丁寧に除草しましょう。詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

イネいもち病の感染好適日が観測されています。今後のほ場の発生状況に注意しましょう。詳しくは本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

イネ白葉枯病の防除適期は、出穂3～4週間前です。昨年発生が多かったほ場では、防除を行いましょう。詳細は本日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参照してください。

5月中旬から6月上旬かけてコムギほ場で捕獲したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病保毒虫率は平年並でしたが、保毒虫率が高い地点がありました。ほ場をよく観察し、縞葉枯病の症状を認めた場合は、周囲への拡大を防ぐため、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。防除対策等は、6月17日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

トビイロウンカ及びセジロウンカについて、6月下旬の本田調査では発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていませんが、本県への飛来に適した気象条件が6月末の時点で4回（6/15, 6/22, 6/25(2回)）出現しています。ほ場での発生状況や今後の飛来状況に注意しましょう。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

ニカメイガについて、6月下旬に県内51地点150ほ場で行った巡回調査において、被害株率は0.17%（平年0.07%、前年0.54%）で、過去10年間と比較して2番目に高い状況でした。また、弥富市に設置している予察灯において、6月上旬に誘殺数がやや多い状況でした。第1世代幼虫の初期被害は、株元の葉鞘が褐変するのが特徴です。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	＋ －～±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± －～±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量は少ない 7月の気温は高い	－ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並	±
				粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	+
ナシ	黒星病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシクイ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月のモモの被害新梢率は高い	+ +
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	+ +
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	6月の発生量は少ない 近年の発生ほ場率は高い 7月の降水量は平年並か少ない	- + -～±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	ナシヒメシクイ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月の発生量は多い	+ +
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
ブドウ	べと病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	+ -～±
	黒とう病	平年並	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ -～±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ -～±
	うどんこ病	少ない	県全域	6月の発生量は少ない	-
	ヨカガラムシ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

#### ・防除対策

##### [ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号（カンキツ）」を参考にしてください。

##### [ナシ・ハダニ類]

コロマイト水和剤、ダニコングフロアブルなどで防除しましょう。

##### [ナシ、モモ・ナシヒメシンクイ]

本日発表の「ナシヒメシンクイ情報第1号（ナシ、モモ）」を参考にしてください。

##### [モモ・ハダニ類]

ダニサラバフロアブル、ダニゲッターフロアブルなどで防除しましょう。

##### [果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参考にしてください。

#### ・留意事項

モモせん孔細菌病は風雨により感染が広がります。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。

クビアカツヤカミキリ成虫の活動が盛んな時期になりました。果樹園（特にモモ）で発生を確認しましたら、農業総合試験場病害虫防除室（0561-62-0085）もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。

## 野菜

#### ・留意事項

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。今後のほ場での発生に注意しましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。また、育苗終了まで定期的に薬剤で予防防除を行いましょう。

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

コナガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

## 花き

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -～±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	6月の発生量は平年並 黄色水盤、黄色粘着トラップ における誘殺数はやや少ない	± -
	ハダニ類	やが多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
	アザミウマ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	オオタバコガ	やが多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやが多い	+

#### ・防除対策

##### [キク (露地) ・ハダニ類]

カネマイトフロアブルやアグリメックなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

##### [キク (露地) ・オオタバコガ]

フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、発生を確認したらディアナSCやヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

#### 参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台 6月30日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い: 10% 平年並: 40% 高い: 50%

[降水量] 少ない: 40% 平年並: 40% 多い: 20%

[日照時間] 少ない: 20% 平年並: 40% 多い: 40%